

# 2019年度の事業の概況

## ● 当金庫を取り巻く環境について

2019年度の日本経済全体の景況は、新型コロナウイルス感染症の影響により、製造業を中心に企業収益が弱含む等、足下で大幅に下押しされており、厳しい状況にあります。先行きについても、感染症の影響による厳しい状況が続くと見込まれ、感染症が内外経済をさらに下振れさせるリスクに十分注意する必要があると同時に、金融資本市場の変動等の影響に留意する必要があります。

青森県内の景気は、感染症の感染拡大の影響から個人消費が弱含んでおり、雇用情勢は改善の動きに一服感が見られます。当津軽地域でも、感染拡大により外出を控える動きが見られ、観光業、飲食業をはじめとして影響が表れはじめております。今後は、感染症による経済の下振れリスクに注意するとともに、将来における地域内の人口減少、少子高齢化等が、地域経済に与える影響について注視していく必要があります。

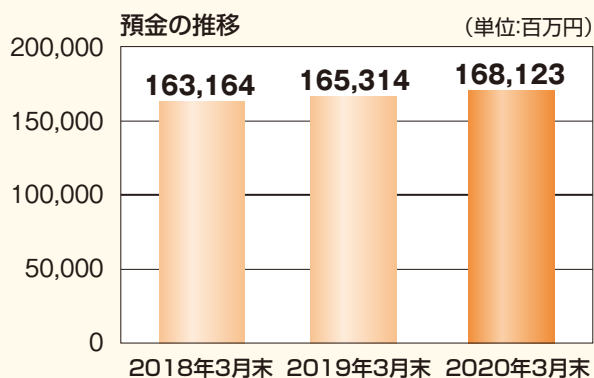
こうした環境の中、2019年度は信用金庫の原点である「相互扶助」の経営理念に基づき、地域やお客さまを支え、ともに発展を目指し、豊かな地域の未来を創り上げていくこと(共創)を目的とし、地域やお客さまから必要とされ続ける「とうしん」ブランドの構築を目指し活動してまいりました。

## ● 当金庫の決算概況について

### 預金残高 1,681億円

2020年3月末の預金残高は、主に個人預金等の増加により1,681億23百万円となり、前期比28億8百万円の増加となりました。

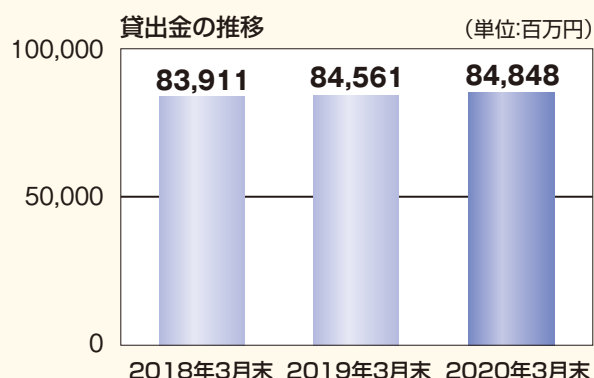
今後も魅力的な商品を取り揃え、地域におけるシェア拡大に取り組んでまいります。



### 貸出金残高 848億円

2020年3月末の貸出金残高は848億48百万円となりました。個人向け貸出等の増加により、前期比2億87百万円の増加となりました。

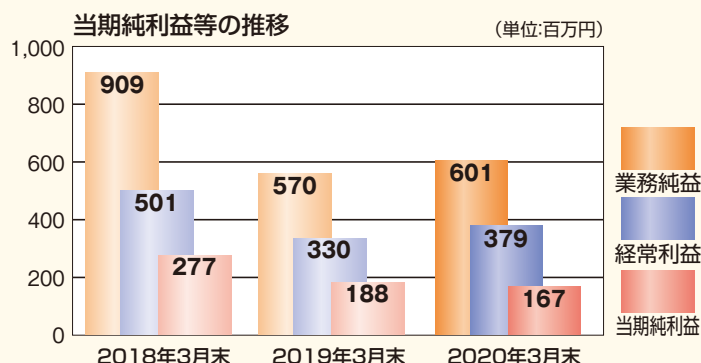
今後も引き続き地域経済発展のため貸出金増強を最重要施策として取り組み、地域貢献を果たしてまいります。



### 当期純利益 1億67百万円

皆さまのご支援のもと、「地域指向」「お客さま指向」の経営に努めた結果、業務純益は6億1百万円、当期純利益は1億67百万円を計上することができました。

今後も資産健全性の維持に努め、地域貢献を第一義として努力を重ねてまいります。



## 自己資本比率 15.18%

金融機関の経営の健全性を示す重要な目安としてよく使われる指標が「自己資本比率」です。信用金庫のように国内だけで業務を行う金融機関の場合、この自己資本比率が4.0%以上であれば健全で問題のない金融機関とされています。

とうしんの2020年3月末の自己資本比率は15.18%で、前期比0.11ポイント低下しましたが、国内基準の4.0%を大幅に上回っております。

今後も健全経営に徹し、自己資本の充実に努めてまいります。

自己資本比率(国内基準)

(単位:百万円、%)

	2018年3月末	2019年3月末	2020年3月末
自己資本額(A)※1	9,871	10,028	10,245
リスク・アセット等(B)※2	64,559	65,556	67,454
自己資本比率(A/B×100)	15.29	15.29	15.18

※1 自己資本額

出資金や内部留保等の合計額から控除項目分を差し引いた額

※2 リスク・アセット等

一般の貸出、住宅ローン、有価証券等保有している資産をその種類ごとに分類し、「損失が発生する危険度に応じた掛け目」(リスク・ウェイト)を掛けたその合計額に「オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8%で除して得た値」を加算した額

単体自己資本比率の推移

(単位:%)



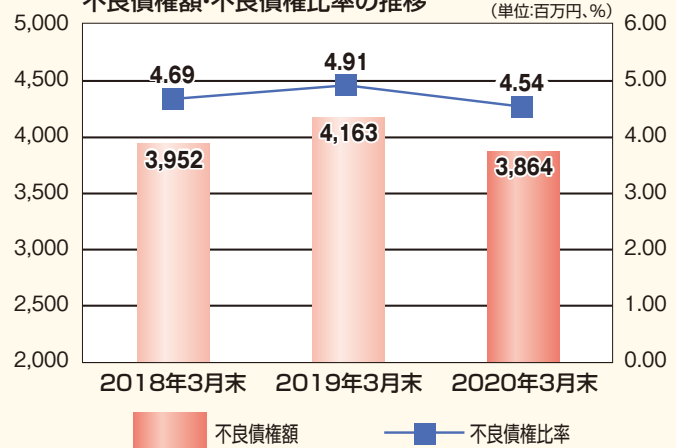
## 不良債権比率 4.54%

2020年3月末の金融再生法に基づく開示債権の金額は38億64百万円で、前期比2億99百万円減少し、それに合わせ、貸出金に占める不良債権の割合も4.91%から4.54%へと低下しております。

これはいずれも担保・保証等の保全のほか、貸し倒れに備えて貸倒引当金を積み立てていることから、保全率は90.36%と経営の健全性は高く、経営に影響を及ぼすことはありません。

不良債権額・不良債権比率の推移

(単位:百万円、%)



## ● 今後の方針について

2020年度は、長期経営計画「ジャンプアップ2018」集大成の年であると同時に、次期長期経営計画、さらにはその先当金庫の5年後、10年後を形作るための重要な1年となります。「ジャンプアップ」完遂に向け、今一度全役職員が同じ理念の下に結集し、強い決意とともに活動してまいります。

地域社会への社会的使命を果たし、地域やお客さまから必要とされ続けるため、環境の変化に向き合いながら、信用金庫の独自性・特性や強みにより一層磨きをかけることで、地域と自らの持続可能性を高めてまいります。